

そばとうどんの
違いをいきいきと演
じる3人の姿に
会場の笑いが



桂伸治師匠は、代表的な古典落語「ちりとてちん」をとりあげ、語りの極意、日本人の伝統的な笑いを体験させて頂きました。ちりとてちん（実は腐った豆腐と大量の唐辛子を混ぜたもの）を知ったかぶりの竹さんが鼻に近づけ、食べた後のしぐさが大変面白く、さすがプロの演技だなあと思いました。

落語家は長生きするので、上がつかえているなどの内輪話も披露されました。（齋藤）

Thank you

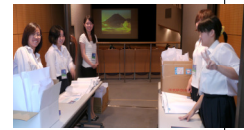
資料づくりや受付で頑張って頂いた県立市ヶ尾高校生の声



2年 近藤可奈絵

最初に講演会のお話を聞いた時、学校の授業と同じように難しい言葉が飛び交う退屈なものを想像していました。でも村上先生はとてもお話の上手な方で、時々ブラックなユーモアを交えつつ、わかりやすいお話をして下さいました。たくさん笑ったので私も少し健康になったかもしれません(笑)

私は、受付のボランティアをさせて頂いたのですが、スタッフの方がとても親切に接して下さいてスムーズに仕事ことができました。とても充実した時間を過ごすことができ嬉しいです。



3年 吉澤美優

今回の話が決まった時、すごく楽しみだった半面、文系で難しい話が苦手な私に理解できるかという不安がありました。でもいざ始めると全然難しくなく、とても面白かったです。私自身アトピーを持っていますが、薬以外で治療する時、〈泣き〉と〈笑い〉どちらかと言われたら当然〈笑い〉の方が良いし、これで症状が軽くなったらこの先いろいろな病気の治療が少し楽しくなると思います。

これからもっと研究が進んで笑顔の人が増えていけばいいなと思います。

お手伝い頂いたボランティアの方たちと



こちら開演前
の腹ごしらえ

